

第2 比較時価格の接続

1 比較時価格の接続の必要性

小売物価統計調査では、品目ごとに調査する商品の仕様（銘柄）を指定し同じ品質の財・サービスを毎月継続して調査するようにしている。しかし、現実には、調査銘柄の製造中止や出回りの変化などに伴う基本銘柄の改正、市町村銘柄の設定、廃止及び変更、あるいは調査地区の変更などが行われる。このような場合、当月価格と前月価格との間に生ずる価格差の中には、品質の変化など物価変動以外の要因による価格差が含まれることがある。

したがって、消費者物価指数の計算に当たっては、このような物価変動以外の要因による価格差を除去（品質調整）して、比較時価格を接続する必要がある。

2 比較時価格の接続方法

基本銘柄の改正時などにおける比較時価格の接続に当たっては、新・旧の財又はサービスの品質差の有無、品質差の態様、市場の価格形成の状況等をよく吟味して、最もふさわしい方法を適用する必要がある。

比較時価格の接続には以下の方法がある。

(1) オーバーラップ法

同一時点において同一条件で販売されている新・旧の銘柄の価格差は、品質の差を反映しているとみなして、両者の価格比を用いて接続を行う。これをオーバーラップ法という。

オーバーラップ法による接続は、次のように行う。

《例1》 ¹⁰			
	前々月	前月	当月
商品 A	120円	130円	-
商品 B	-	160円	165円
リンク係数 =	前月の商品 A の価格	130円	
	前月の商品 B の価格	160円	= 0.8125
比較時価格	前々月	前月	当月
	120円	130円	134.06円
			[165円 × 0.8125]

¹⁰ 計算を分かりやすくするため、価格が一つである場合の例で説明している。

(2) 容量比による換算

新・旧の銘柄で品質は同じで、容量だけに差があり、価格と容量がほぼ比例的な関係にある場合には、新銘柄の価格を、旧銘柄の容量に対する価格に換算する。

容量比による換算は、次のように行う。

《例2》			
	前月		当月
商品 A	150g 135円		-
商品 B	-		160g 150円
リンク係数 =	商品 A の容量	=	150g
	商品 B の容量	=	160g
			= 0.9375
	前月		当月
比較時価格	150g 135円		150g 140.63円
			[160g 150円 × 0.9375]

(3) 回帰式を用いた換算

新・旧の銘柄の価格を回帰式に当てはめ、新銘柄の価格を、品質等が旧銘柄と同等な場合の価格に換算する。

次の例は、容量を説明変数とした単回帰式を用いたものである。

《例3》			
	前月		当月
商品 A	1200g 1800円		-
商品 B	-		1120g 1760円
			(ただし 720g 1210円)
[回帰式による推計]			
	1760 = 1120a + b		
	1210 = 720a + b		a = 1.375 , b = 220.0
			y = 1.375x + 220.0
	よって商品 B の1200gは、1.375 × 1200 + 220.0 = 1870円と推計される。		
	商品 B 1200gの推計価格		1870円
リンク係数 =	商品 B 1120gの価格	=	1760円
			= 1.0625
	前月		当月
比較時価格	1200g 1800円		1200g 1870円
			[1120g 1760円 × 1.0625]

なお、説明変数が二つ以上の重回帰式を用いる場合、この方法はヘドニック法と呼ばれている。

(4) オプションコスト法

旧銘柄ではオプションとなっていた装備が、新銘柄では標準装備となったとき、品質向上に伴う価格上昇は、オプション部分の購入費用に相当する。ただし、標準装備になると生産量が多くなる分、必要なコストはオプション装備に必要なコストよりも少なくて済むと考えられる。また、消費者はオプションの購入費用をかけないことを選択する機会を失うことなどから、オプションであったときの価格からその分を調整（通常、2分の1とみなすことが多い。）して品質向上分として扱う。これをオプションコスト法という。

オプションコスト法による接続は、次のように行う。

《例4》		
	前月	当月
商品A	240万円	-
(オプション)	20万円	
商品B(標準装備)	-	255万円
よって、標準装備に伴う品質向上分は20万円×1/2=10万円と推計される。		
商品Aの価格		
リンク係数 =	商品Aの価格 + 標準装備に伴う品質向上分	
	240万円	
=	240万円 + 10万円	= 0.9600
比較時価格	前月 240万円	当月 244.8万円 [255万円×0.9600]

(5) インピュート法

新・旧の銘柄を前月時点で比較することができない場合、その品目の価格変化を、類内の他の品目すべての平均的な価格変化と等しいとみなして接続を行う。これをインピュート法という。

この方法は同時点の新・旧両銘柄の価格が得られない場合に用いる方法であり、通常この方法を用いることは適当でないが、出回りが季節的に限られる被服などの品目で例外的に用いている。

インピュート法による接続は、次のように行う。

《例5》			
	前年同月	前月	当月
商品 A	1500円	-	-
商品 B	-	-	1200円
上位類指数 ¹¹	100.2		99.8

	商品 A の前年同月の価格 ×	当月の上位類指数	
リンク係数 =		前年同月の上位類指数	
	商品 B の当月の価格		
	1500円 ×	99.8	
=		100.2	= 1.2450
	1200円		

	前年同月	前月	当月
比較時価格	1500円	-	1494円
			[1200円 × 1.2450]

(6) 直接比較

新・旧の銘柄の品質等が同じとみなせる場合は、調査された価格を直接接続する。接続においてはリンク係数等の特別な処理を必要としないが、適用に当たっては、新・旧両銘柄の品質について吟味し、新・旧銘柄の品質等が同等と判断されることが必要である。

¹¹ 上位類指数はいずれも当該品目を除いて計算された指数。